

3

chapter

学習とメディア利用

多くの保護者が「子どものメールやインターネットの利用時間が長くなると、成績が下がるのではないかと心配している」という声を聞きます。たしかにメールやインターネットの利用時間が長くなることによって、勉強時間や睡眠時間が短くなり、それが間接的に学習にマイナスの影響を与えているということは考えられます。

しかし今の子どもたちは、生活面だけでなく学習面でもメールやインターネットを活用し、さまざまな情報交換をしています。勉強中に全くスマートフォンや携帯を利用させないことは、かえって子どもの成長や学習の面でマイナスの影響を与えるかもしれません。

「適切な使い方」といったことがよく言われますが、そもそも今の子どもたちは学習の際にどのような機能を利用しているのでしょうか。そしてその利用行動が学習に与える影響はどの程度のものなのでしょうか。

この章では、以上のような不安や疑問についてデータをみながら考えていきます。

Contents

3-1	インターネットの利用時間は成績層で違う？	27
3-2	学習の時にインターネットやメールで何をしている？	28
3-3	学習時のメディア利用と成績の関係は？	29
3-4	何をしながら勉強している？ —学習時の「ながら行動」の実態—	30
3-5	学習時の「ながら行動」と成績の関係は？	31
column	「普段の学習スタイル」が メディア利用に与える影響	32

インターネットやメールの利用時間と成績の間に相関あり。

インターネットやメールの利用時間の長さや成績はどのような関係にあるのだろうか。その結果を成績別にみたものが、以下のグラフ(図24)である。中学生の結果をみると、成績上中位層は「1時間くらい」でもっとも比率が高くなるのに対し、成績下位層は「4時間以上」でもっとも比率が高い。全体的に成績が高い生徒ほど、メディア利用時間が短い傾向がみられる。この傾向は高校生の結果でも同様で、成績上位の生徒が多い進学校で、メディアの利用時間が短く、進路多様校で利用時間が長い。

Q あなたは平日にインターネットやメールをどれくらいしていますか。

図.24 1日あたりのメディア利用時間(インターネットやメールをする合計時間)と成績の関係(学校段階別)



注1) グラフでは調査項目「15分くらい」「30分くらい」を「30分以下」として、

「4時間くらい」「5時間くらい」「5時間より多い」を「4時間以上」にまとめて掲載している。

注2) 高校生の成績は、入学した高校の学科や入学時の生徒の学力水準によって大きく異なると考えられる。

そこで学校が公開している進学状況を参考に、高校を「進学校」「中堅校」「進路多様校」の3つのタイプに区分した。

高校生の5割が学習中に

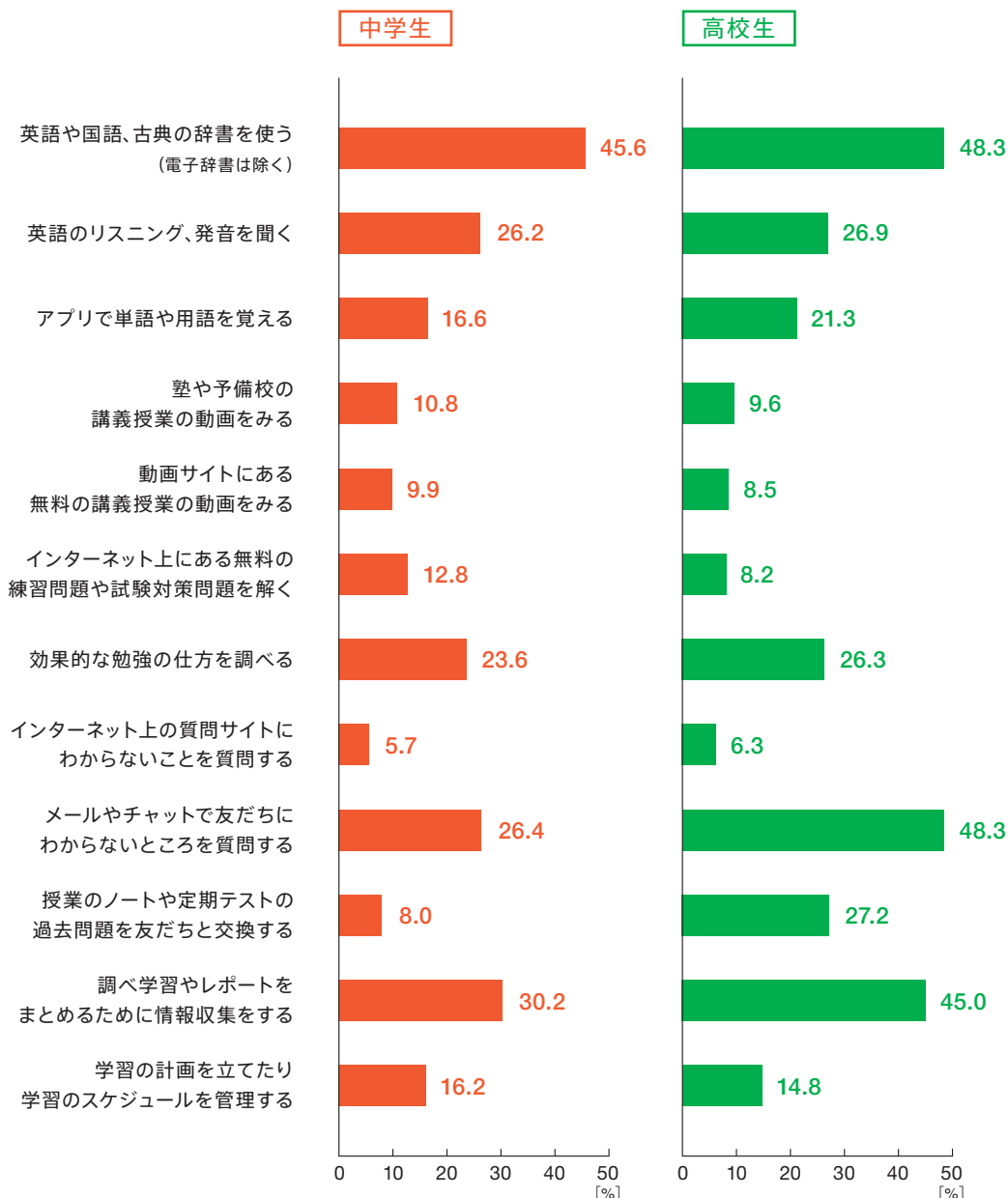
「メールやチャットで友だちにわからないところを質問する」。

中高生は学習時にインターネットやメールを使って何をしているのだろうか。中学生の上位3つは「英語や国語、古典の辞書を使う（電子辞書は除く）」(45.6%)、「調べ学習やレポートをまとめるために情報収集をする」(30.2%)、「メールやチャットで友だちにわからないところを質問する」(26.4%)である。高校生も上位3つの内容は中学生と変わらない。しかし「メールやチャットで友だちにわからないところを質問する」(48.3%)や「授業のノートや定期テストの過去問題を友だちと交換する」(27.2%)で20ポイント前後の増加がみられる。

Q あなたは、勉強する時にインターネットやメールを使って次のようなことをしますか。

図.25 学習時のインターネットやメールの利用内容

全体



注) 数値は「よくある」+「ときどきある」の%。

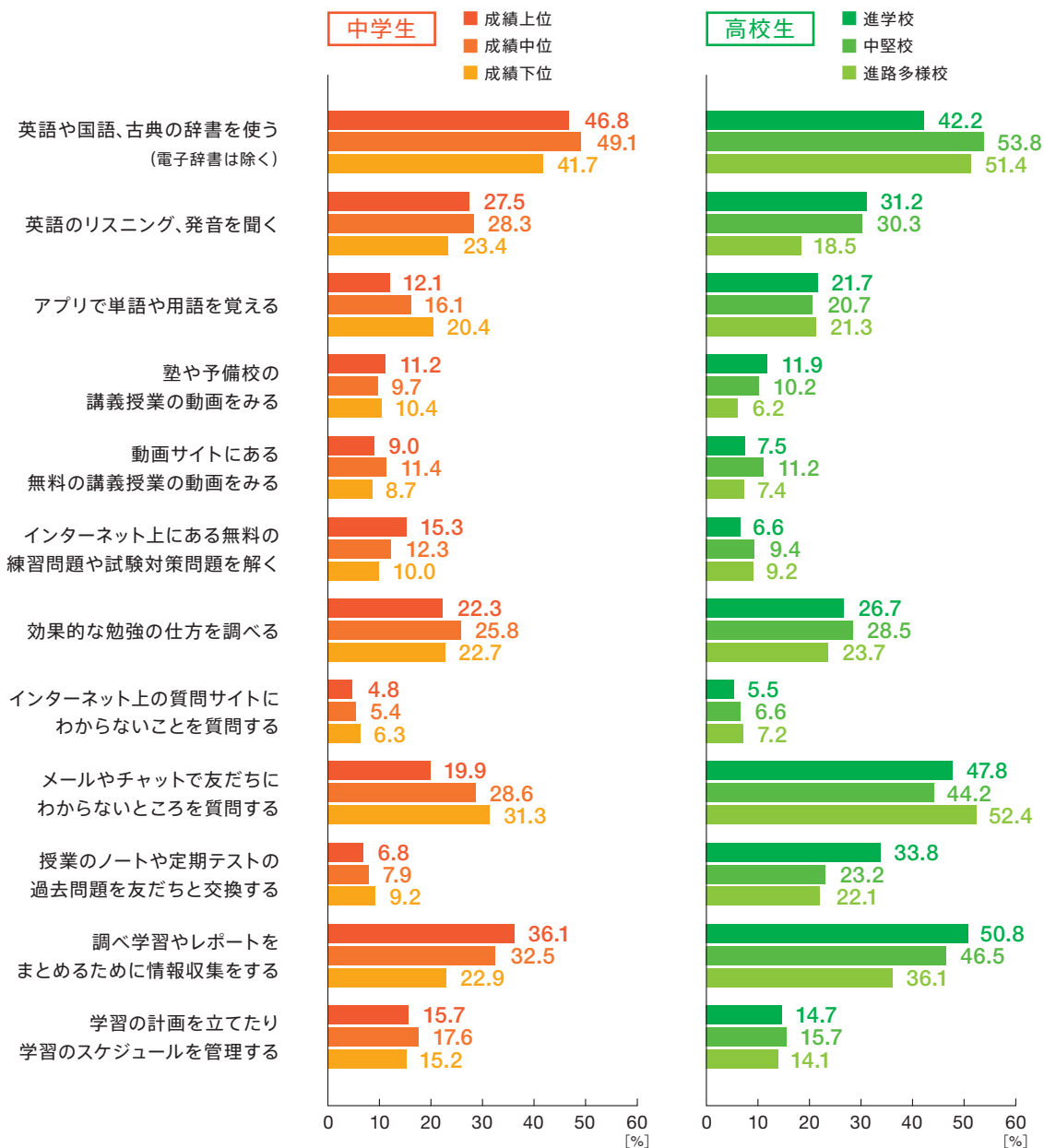
成績上位層はもちろん、成績中下位層でも、 さまざまな形で学習時にメディアを利用している。

成績によって学習時のインターネットやメールの利用内容に違いはあるのだろうか。図26はその結果を示したものである。中高生ともに「調べ学習やレポートをまとめるために情報収集をする」において成績による利用率の差がみられるが、全体的な利用傾向をみれば、成績層で体系的な違いはみられない。成績上位層はもちろん、成績中下位層でもさまざまな形で学習時にメディアを利用している。

Q あなたは、勉強する時にインターネットやメールを使って次のようなことをしますか。

図.26 学習時のインターネットやメールの利用内容（成績別）

全体



注1) 数値は「よくある」+「ときどきある」の%。

注2) 高校生の成績は、入学した高校の学科や入学時の生徒の学力水準によって大きく異なると考えられる。

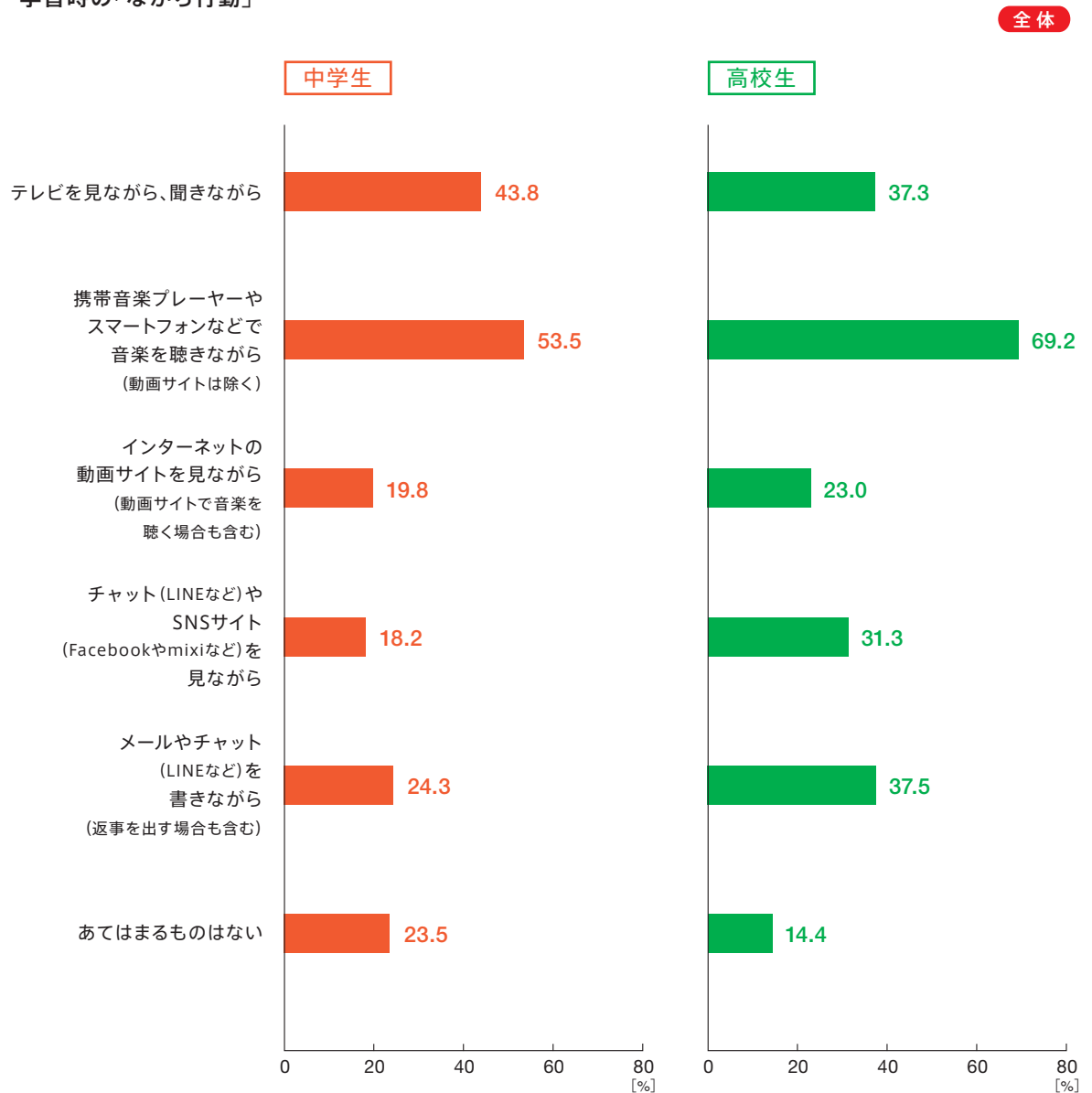
そこで学校が公開している進学状況を参考に、高校を「進学校」「中堅校」「進路多様校」の3つのタイプに区分した。

中学生の5割、高校生の7割が、 「携帯音楽プレーヤーやスマートフォンなどで音楽を聴きながら」勉強。

中高生の学習時の「ながら行動」(並行行動)の実態はどのようなものだろうか。その全体傾向を示したものが図27である。中高生で共通して比率が高いのは「携帯音楽プレーヤーやスマートフォンなどで音楽を聴きながら(動画サイトは除く)」で中学生53.5%、高校生69.2%。次に「テレビを見ながら、聞きながら」が4割前後、さらに「メールやチャット(LINEなど)を書きながら(返事を出す場合も含む)」が中学生で24.3%、高校生で37.5%と続いている。

Q あなたは、家で、次のようなことをしながら勉強をすることがありますか。

図.27 学習時の「ながら行動」



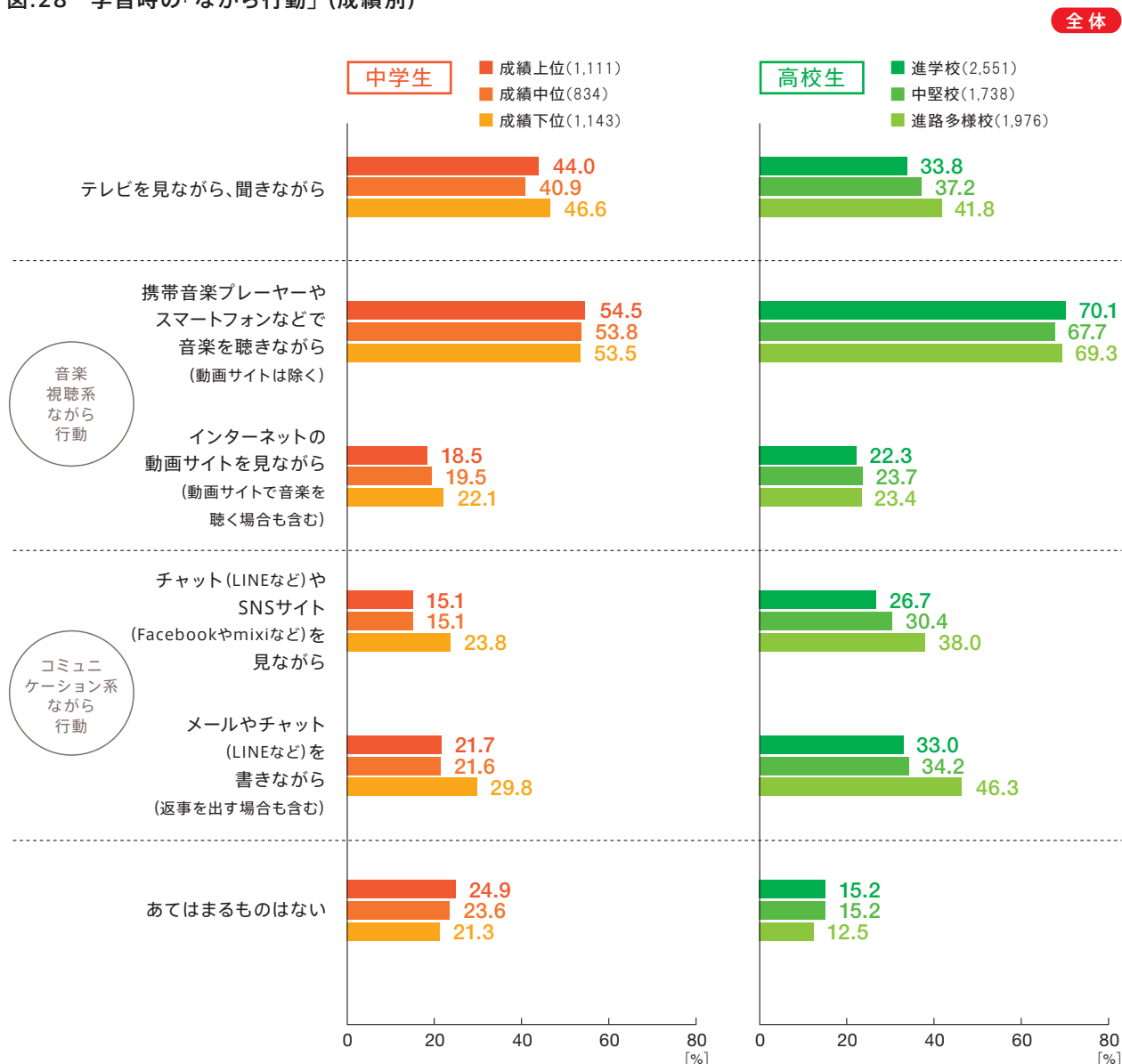
注) 数値は「該当者」の%。

成績下位層で「コミュニケーション系ながら行動」の比率が高い。

中高生の学習時の「ながら行動」は成績とどのような関係にあるのだろうか。図28はその傾向を成績別にみたものである。中高生ともに成績中上位層と比べ、成績下位層で「チャット(LINEなど)やSNSサイト(Facebookやmixiなど)を見ながら」「メールやチャットを書きながら」(コミュニケーション系ながら行動)の比率が高い。一方、「携帯音楽プレーヤーやスマートフォンなどで音楽を聴きながら(動画サイトは除く)」「インターネットの動画サイトを見ながら(動画サイトで音楽を聴く場合も含む)」(音楽視聴系ながら行動)では成績による差がみられない。

Q あなたは、家で、次のようなことをしながら勉強をすることがありますか。

図.28 学習時の「ながら行動」(成績別)



注) 数値は「該当者」の%。

「普段の学習スタイル」が メディア利用に与える影響

ここまで成績による学習時のメディア利用の違いをみてきた。
しかしメディア利用に影響を与える要因はその他にもあるだろう。
ここでは、中高生の「普段の学習スタイル」(学習行動・学習に対する考え方等)によって
メディア利用にどのような違いがあるかをみてみよう。

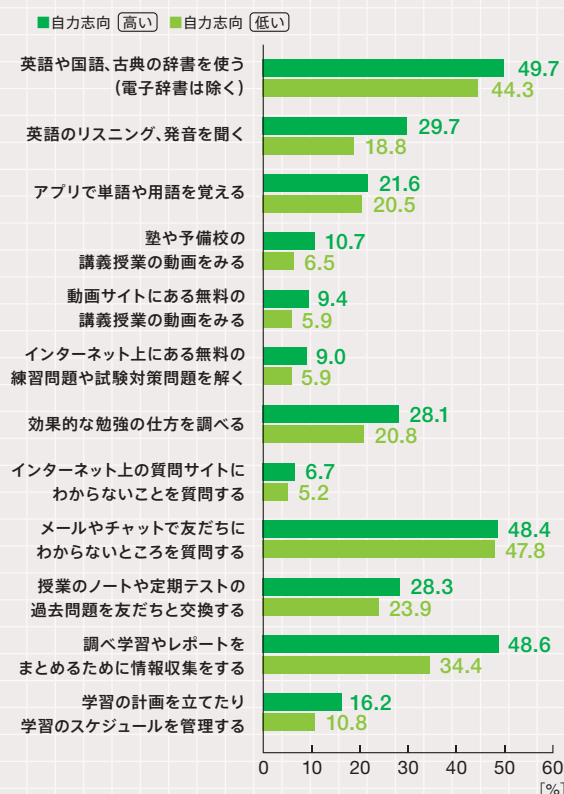
「普段の学習スタイル」によってメディア利用はどれくらい違うのだろうか。普段の学習スタイルを代表する項目として「わからないところはまず自分で考える」(自力志向)、「わからないところはすぐに誰かに教えてもらう」(他力志向)、「テスト前には要点が簡単にまとめられた市販の教材で勉強する」(要領志向)の3項目を使用し、スタイルごとのメディア利用の特徴をみてみよう。なお、分析には、中学生に比べ、よりインターネットやメールの利用率が高い高校生のデータを使用した。

自力志向

**「勉強は自分の力でやる。メディアはあくまで
効果的に利用し、自分の勉強を補完するもの！」**

右のグラフは、自力志向の高低別に、学習時における高校生のメディア利用の違いをみたものである。結果をみると、自力志向の高い学習スタイルの生徒は、自力志向の低い学習スタイルの生徒に比べ、「調べ学習やレポートをまとめるために情報収集をする」「効果的な勉強の仕方を調べる」「英語のリスニング、発音を聞く」で利用率が高くなっている。自力志向の高い学習スタイルの生徒は、どちらかというと自分の学習を効果的に進めるための補完的なツールとしてメディアを利用する傾向がみられる。

■ 自力志向の高低別 学習時のメディア利用



注1) 「普段の学習スタイル」の代表項目の抽出にあたっては、まず探索的因子分析を行い、抽出した3つの因子について、それぞれもっとも因子負荷量の高い項目を選んだ。

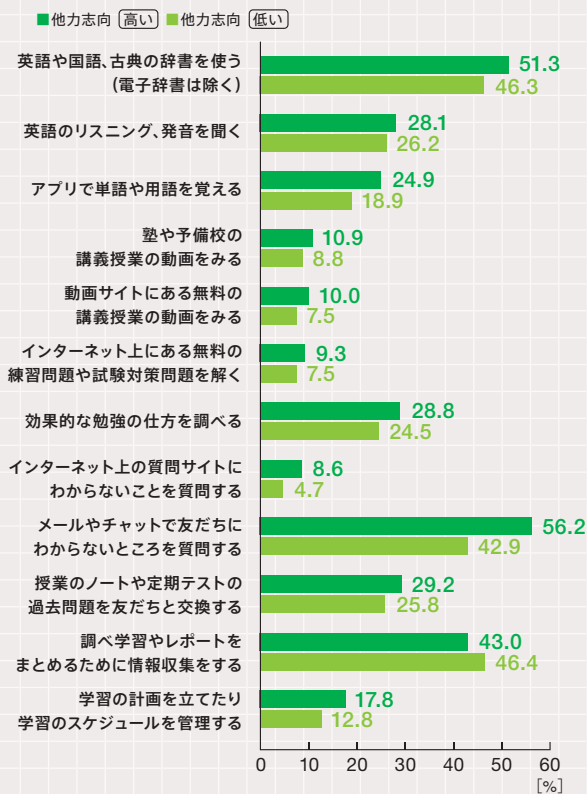
注2) 数値は「よくある」+「ときどきある」の%。

他力志向

「わからないところは、チャットですぐに質問。
勉強はできるかぎり省エネ！」

つづいて、他力志向の高低別に、学習時におけるメディア利用の実態をみてみよう。他力志向の高い学習スタイルの生徒は、他力志向の低い学習スタイルの生徒に比べ「メールやチャットで友だちにわからないところを質問する」の利用率が10ポイント以上高い。また、「アプリで単語や用語を覚える」といった項目でも利用率に差がみられる。他力志向の高い学習スタイルの生徒は、補完的にツールを利用するというよりは、友だちからの情報やアプリに頼った学習をしている可能性がうかがえる。

■ 他力志向の高低別 学習時のメディア利用

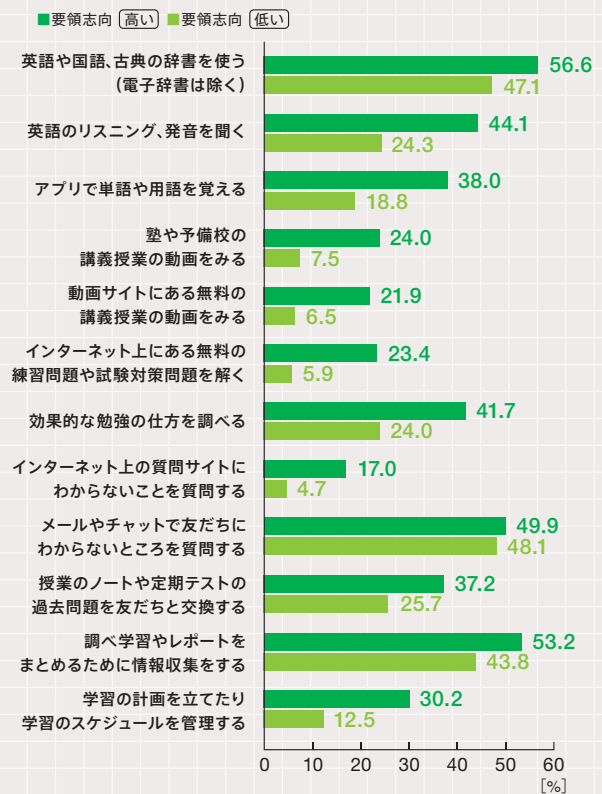


要領志向

「便利なツールや機能はどんどん取り入れて
効率的に勉強！」

最後は要領志向の高低別のメディア利用実態である。「メールやチャットで友だちにわからないところを質問する」の項目を除くすべての項目において、5ポイント以上の利用率の差がみられる。要領志向の高い学習スタイルの生徒は、何か特定のツールや機能を利用するというよりは、できるだけ効率的に勉強したいという意識からか、便利なものは積極的に学習に取り入れ、利用しようとする傾向がみられる。

■ 要領志向の高低別 学習時のメディア利用



以上、高校生の「普段の学習スタイル」と学習時のメディア利用の関連をみてきた。その結果、普段どのような学習に対する意識や行動をとっているかによって、学習の際のメディア利用の内容や利用率に差があることが明らかになった。

この結果は、見方を変えると、高校生の普段の学習スタイルやそれに基づく学習行動が、メディアの利用によって促進、強化されているようにもみえる。大事なのは、メディアの利用の仕方だ。もともと持っている学習スタイルが自律的で、それを強化するメディアの使い方になっていればよいが、普段の学習スタイルが依存的で、「とにかく友だちに質問して教えてもらえばよい」といった思考を深めない使い方や留まっているのだとすれば課題が残る。メディアの利用について「適切な使い方」が叫ばれているが、それは単に大人の「健全」や「有害」の認識に基づいて、どう規制するかを検討するだけでなく、メディアの効果的な使い方や、どのような意識や考え方の下に利用しているかを中高生自身にいかにか考えさせるかといった観点からも、もっと検討がなされるべきではないか。